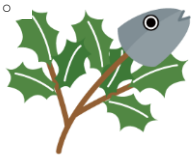
くしろっ子 2月

川西市立久代小学校　学校だより　令和５（2023）年２月１日発行

春の訪れを感じる「節分」

２月になりました。２月４日は、春の季節の始まりとされる「立春」といわれる日です。江戸時代頃から、立春の前日を「節分」というようになったそうです。節分といえば豆まきが多くの地域で行われています。 これは、宮中で節分に行われていた「追儺 （ついな）」という鬼払いの行事が広まったものだそうです。また、節分の豆を年齢の数（または年齢の数＋１個）だけ食べることで、無病息災を願うというのも良く知られています。



大豆は良質なタンパク質をはじめ、ビタミンやカルシウム、食物繊維などを豊富に含んだ栄養価の高い食品です。この機会に、今年一年の自分やまわりの人の健康を祈りながら楽しく豆まきをし、豆を食べてみてください。そして、風邪を引かない丈夫な体づくりをしましょう。

【フリー参観　(1/19)】

フリー参観にたくさんご参加いただき、ありがとうございました。廊下には、各学年が取り組んだ書初めや目標が掲示されており、熱心にご覧になっている保護者の方もおられました。

また、フリー参観は 9:40～12:00 なので、いろいろな場面の子どもたちの様子を観て頂くことができました。図書の読み聞かせでは、保護者も子どもたちと一緒に畳に座って聞いて頂いたり、休み時間に友だちと運動場で遊ぶ様子を観て頂いたりと、お子さんの普段の学校生活を分かっていただけたことと思います。

【令和８年度　中学校の部活動における社会移行】

これまで、部活動は、生徒の生きる力を育むことにおいて大きな効果を発揮してきました。しかし、近年の生徒数の減少やそれに伴う教員数の減少により、専門的な指導力をもった顧問の不足が見られ、部活動に様々な制限や制約が生じている現状があります。また、部活動に対する生徒や保護者の期待やニーズの変化に加え、生徒の健康面や望ましい集団づくりへの配慮、さらには部活動指導にあたる教員の多忙化など多くの課題があります。

このような状況を踏まえ、部活動に関する国の動向やスポーツ庁「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン（平成 30 年 3 月）」及び兵庫県教育委員会「いきいき運動部活動（平成 30 年 9 月）」参酌し、部活動の在り方について検討し、「川西市における部活動の在り方に関する方針」（文化系部活動についてもこれに準じて取り扱う）を定め、川西市教育委員会は、令和８年度に中学校の部活動を社会移行することにしました。

「令和８年に社会移行」ということで、まだ先の事のようですが、現６年生が中３、現５年生が中２、現４年生が中１の年となります。そのため、令和 5 年 12 月から令和 6 年 1 月にかけて、市立中学校を会場にして各中学校区における小学校 4 年生から小学校 6 年生までの保護者の皆様を対象に説明会が行われました。（市の HP に資料掲載）現在、先行実施できる地域クラブ（仮称）を行う等、計画を進めているところです。

２月の行事予定

日	曜	行事予定	日	曜	行事予定
1	木	1-2	16	金	5年
2	金	同伴登校日 （保護者　南中学校入学説明会［南中］）	17	土	
3	土		18	日	コミュニティ　自主防災訓練
4	日		19	月	低学年・６年　授業参観・懇談　4年
5	月	クラブ　6年	20	火	
6	火	５年出前授業「ものづくり」	21	水	朝会 ４、５年　授業参観・懇談 ６年　川西南中学校体験入学
7	水	久代タイム ★除去食	22	木	３年校外学習（集合:Ｑ６公園）
8	木		23	金	天皇誕生日
9	金	★除去食 スクールカウンセラー訪問日 職員会議　⇒児童下校 13:30	24	土	
10	土		25	日	
11	日	建国記念の日	26	月	3年
12	月	振替休日	27	火	★除去食
13	火	読書週間　5年	28	水	職員会議　⇒児童下校 13:30
14	水	６年　非行防止氷室 職員会議　⇒児童下校 13:30	29	木	
15	木	同伴登校・登校指導 学校安全協力員［家庭科室］ 8:15～　年度末交流会 10:00～11:00　市内研修会（Zoom）			

＜３月の予定＞

1（金）　同伴登校日
　　６年校外学習（集合:北伊丹駅）
4（月）　委員会
8（金）　スクールカウンセラー来校日
11（月）　校外児童会
13（水）　職員会議⇒児童下校 13:30
15（金）　同伴登校日・登校指導
18（月）　給食最終日
19（火）　卒業式
22（金）　大掃除
25（月）　修了式⇒児童下校 11:00

【大谷翔平選手からのプレゼント】

１月末に大谷選手からのグローブのプレゼントが届きました。各クラスにグローブを回覧したところ、子ども達は手にはめてみる等大喜びでした。大切に使わせていただきます。

大谷選手の「野球しようぜ」の呼びかけに賛同し、野球をする子ども達が増えたり、体を動かすこと（体力づくり）のきっかけになったりすることを願います。